

受験番号				
氏名				

二〇二五年度 教育学部 転科・転専修試験 問題用紙

## 「小論文」 国語国文学科

No. \_\_\_\_\_

〔設問〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。各解答の最初に問いの番号を明示すること。

教師は一個人たる義務の外、又、①学士たるの義務あり。而して此義務は大に其童子を教育するの本務に關係を有するものなり。何をか学士の義務と謂ふ。曰く、学芸の爲め心身を勞するこれなり。夫れ学芸の進むや之を撫育養成する者ありて而して進むなり。豈に独り自ら開展発達するものならんや。是故に学芸は人を待てて進達し、人は学芸に倚りて聰明なり。抑も学芸の類亦多し。而るも其善く完全備具して欠くるなきものは未嘗てこれあらざるべし。「ニウトン」氏老後歎じて曰く、「嗟乎学海の広且大なる洋々たる大海も畜ならず何処にか其の際限を見るを得ん。余纔に其浜沼に達し水を涉て介殻の美麗なる者二三を拾得たれども未だ渺たる滄海の底に何物のあるを知らず。水蕩々として余を遮り、舟の以て航すべきなし。嗚呼余今將に此を去らんとす。誰か能く余に繼て彼の幽底を探らん」と。「ニウトン」氏の如きは宇宙引力を始とし其他許多の学理を研究し、今に其の名を垂るゝ程の大人学士なるも、而も尚未だ解し得ざる者多くして其学識の浅狭なるを歎きしなり。且夫学芸は倉廩の如し。人々一粒一個の発明を積み漸を追ひ充るを期するのみ。②豈に一人一個の勞、能く之を充実するを得んや。故に学芸の田に耕し理術の実を獲て、以て此に収納するは人々の当に務むべき所なり。仏人某は陶窯の技を研究して妻子を飢餓に啼かしめ、米人某は炭酸氣の毒質を試験して自ら其命を墜せり。是等の人こそ学芸技術に忠にして文世の豪傑とも称すべけれ。嗟乎今の学士たる者心を斯に用ひずして徒に寡能短智に誇り、之に倚りて以て名利を求めんとす。滔々たる、天下皆是なり。豈に歎ぜざるべけんや。人、国に生る。故に国に尽すの義務あり。人、父母に育はる。故に父母に尽すの義務あり。人、学芸によつて幸福を得。豈亦之に尽すの義務なからんや。然り而して世人は国家に尽すの義務と父母に尽すの義務とを知つて而して独り学芸に尽すの義務を知らざるは蓋し何ぞや。若し国民にして国民たるの義務を尽さざれば、其の国民たらざるを責め、人子にして人子たるの義務を弁へざれば、其の人子たらざるを詰らば、学者にして学者の義務を知らざれば、其の学者たらざるを尤むべきなり。然則苟も学芸を以て自ら任ずる者は、能く其義務を弁へ日夜勉刻苦し、始めて一学士たるに恥ぢざるなり。豈に生徒を教育するの一事を以て足れりとせんや。

〔三宅米吉「学士の義務」より。出題にあたり、字体を改め、読み仮名、句読点などを適宜施した。〕

問一、筆者は、教師には「学士たるの義務あり」(傍線部①)と述べている。筆者がそう考える根拠を簡潔に纏めた上で、それについてのあなた自身の考えを述べなさい。

問二、傍線部②「豈に一人一個の勞、能く之を充実するを得んや。」とあるが、「之」の指す内容を明示して口語に訳し、かつ、筆者は「之を充実」させるために何が必要だと述べているか、簡潔に纏めなさい。

問三、「学芸」の対象として文学(古典文学、近・現代文学)作品を扱い、初等・中等教育課程(小学校～高等学校)の「国語」においてそれを教授することの意義について、あなた自身の考えを述べなさい。

〔以下、余白〕

二〇二五年度 教育学部 転科・転専修試験 解答用紙

「小論文」 国語国文学科

受験番号				
氏名				

採点欄

No. \_\_\_\_\_

裏面使用可

ここから記入すること ↑

ここから左には記入しないこと